

「自分らしさ」を決めつけられない社会へ 映画「となりのとらんす少女ちゃん」 公開直前！特別試写会&スペシャルトーク

ジェンダーの境界が身体的にも心理的にも濃く引かれるようになっていく思春期。
周囲との違和感を抱き始めた主人公が未来からやってきた「もうひとりの自分」との対話を通して、自分らしい生き方を探求していく――。

トランスジェンダー当事者である漫画家・とら少が、トランスジェンダーの若者たちの感情をリアリティ豊かに描き、多くの共感を集めた短編漫画集『となりのとらんす少女ちゃん』(在野社)。その中の一編、「未来から来たとらんすちゃん」が、日本のクィア映画を牽引してきた監督の一人、東海林 毅氏が映画化。劇場公開に先立って特別試写会です。



©2026 みのむしフィルム

日付・場所

日時：2026年10月26日（月）17:00～19:40

場所：龍谷大学深草キャンパス成就館メインシアター

対象：本学学生・教職員・一般

費用：無料

■スケジュール

16:30 開場

17:00 開演・開演挨拶

17:10 映画上映

18:40 トークセッション

登壇者：東海林 毅氏（監督）・中川 未悠氏（主演）
本学関係者（予定）

19:40 閉会

■申込方法

以下のQRコードまたはURLより
お申し込みください。
（先着順）

[https://forms.gle/
NVMSmu9p1HH7v
Qhy5](https://forms.gle/NVMSmu9p1HH7vQhy5)



映画「となりのとらんす少女ちゃん」 試写会&トークセッション

となりの
とらんす
少女ちゃん
©2025 みのむしフィルム

上映後、監督の東海林 毅 氏・主演の中川 未悠 氏を迎え、作品に込めた思いや制作の背景、作品と向き合う中で得た経験についてお話しいたします。お二人のお話を通して、参加者のみなさんに「となりにいる誰か」を理解することの意味や、多様性を尊重し、ともに生きる社会について考える時間を過ごしていただきます。そこから、一人ひとりが身近な人との関わりや、自分らしく生きることについて考えるきっかけをお届けします。
最後には、お二人へのご質問を受け付け、作品やテーマについてより深く掘り下げる質疑応答を行います。

登壇者紹介



東海林 毅 氏（監督）

本作品について

僕は青春映画が少し苦手です。なぜならそこに自分の姿がほとんど見当たらないからです。思春期、性的マイノリティの子供たちは部活や恋愛といった「普通の青春」を送る前にまず自分自身と向き合うことを迫られます。なぜ自分は親や友達と違うのか？自分は間違った存在なのか？と悩みながら、手探りで自分と社会を接続していく苦しい季節。突き放した言い方をすればそれが性的マイノリティにとっての「青春」なのかもしれません。この「青春映画」はそんな中学生だった自分に届けるつもりで制作しました。素敵な原作を提供してくださったとらんすさん、自身に問いかけるように丁寧に演じてくださった中川未悠さんに感謝申し上げます。コメディ映画なので皆さんぜひご覧くださいませ。

プロフィール

武蔵野美術大学在学中より活動を開始し、1995年 東京国際レズビアン&ゲイ映画祭にて審査員特別賞を受賞。パイセクシュアル当事者でもあり、商業作品を監督する傍ら映画を通してLGBTQ+と社会との関わりを探ってきた。短編「老ナルキソス」(2017)が国内外の映画祭で10冠を獲得、長編版をセルフリメイクし2023年に劇場公開。「片袖の魚」(2021)では日本で初めてトランスジェンダー当事者の一般公募オーディションを行い話題となる。2024年11月20日に「LGBTQ+差別に反対する映画監督有志の声明」を有志代表として掲出した。

中川 未悠 氏（主演）

本作品について

皆さんは過去に戻りたいと思ったことはありますか？私は何度も思ったことがあります。あの時、早く行動に移しておけば。とか、あの時、もっと勉強していたら。とか...タラレバを言ってしまった。でも、きっと未来は自分で切り開いて行くことに意味があるんですよね。過去があるから今の私がいる。

この作品は悩みや葛藤を抱えながらも前に進もうとする主人公の姿に、私自身もたくさん勇気をもらいました。観てくださる皆様の未来に光が入り込むような作品です。

プロフィール

トランスジェンダーMTF当事者。俳優。21歳の時、大学在学中に性別適合手術を受け、戸籍も女性へ。その手術までを追ったドキュメンタリー映画『女になる』(田中幸夫監督)が2017年秋に全国で公開。その後、演技未経験ながらも2025年11月14日に公開された映画『ブルーボーイ事件』(飯塚花笑監督)の主演にオーディションを経て抜擢された。本作は主演2作目。

